



ガッポラ

学生ボランティアが地域課題を解決!

丹波篠山には、地域が抱える課題に取り組む大学生たちがいます。彼らはゼミやサークルの活動として、地域の協力のもとさまざまな活動をされています。このコーナーでは、そんな学生の皆さんを紹介します。

問い合わせ 創造都市課 ☎552-5106



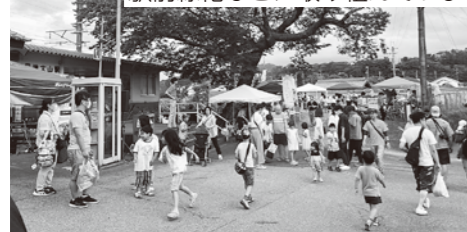
にしきに恋してみんな来い!

神戸大学 地域密着型サークルにしき恋

活動内容 農業ボランティア、無人駅活性化(オオヤマルシェなど)、小中学生交流、お菓子作りなど

地域と学生のつながり
「にしき恋」は西紀南地区を拠点に活動する神戸大学のサークルです。市内の農家の下で毎週行う農業ボランティアを中心に、地域との交流や、農地を借りて黒枝豆の生産販売なども行っています。設立は2013年。神戸大学の「実践農学入門」が西紀南地区で開講され、終了後も地域と関わり続けたいと望んだ有志7人が立ち上げました。今では、参加者は他大学生や卒業生なども含めて146人(昨年実績)になり、卒業後に丹波篠山で働く人もいます。

無人駅活性化
丹波大山駅の活性化をめざし、マルシェや駅前緑化などに取り組んでいます。



小学生交流
イベントを企画し、西紀南小学校の生徒と交流しています。



農業ボランティア
地域の農家の下で農作業を手伝います。多い時は約30軒の農家さんが受け入れています。

「何も考えず農業ができる」という魅力

にしき恋代表 2回生 枝松歩紀さん
学生の声
にしき恋の良いところは、何も考えずに気軽に農業できることです。北山さんに地域とつないでもらい「やるぞ」という気持ちだけで来れます。そして農業を手伝うと農家さんから「ありがとう」と言われ、やりがいを感じながら活動ができます。

学生と地域の良い関係

西紀南まちづくり協議会顧問 北山透さん
地域の方の声
高齢の農家さんも、学生が来るので「もうちょっと農業しよか」と思ったり「来てくれるだけでうれしい」と言ったりする声を聞きます。「地域に何かしなければ」と思わなくても農家の活力につながり、学生も気軽に来れる関係になっています。

第6回 オオヤマルシェ

～わんぱく! まんぶく! 超満足!～

7/14(日)
11:00~17:00 (L.O. 16:30)
@丹波大山駅前



地域のお店や大学生が出店するお店がずらりと並びます! ワークショップなど子どもたちが楽しめる企画も考案中! ぜひ、遊びにきてください!

オオヤマルシェ実行委員長
3回生 星川矢一さん



【開設期間】7月1日(月)~9月30日(月)

丹波篠山市指定暑熱避難施設「ひと涼み処」

問い合わせ 健康課 ☎594-1117

熱中症予防のため、家に帰る道中、運動時、熱中症警戒アラート発表時などにひと涼みしましょう。

開放場所一覧

篠山	多紀	丹南
市役所本庁舎 市民ホール 月~金曜日8:30~17:15 市役所第2庁舎 ロビー 月~金曜日8:30~17:15 丹波篠山市民センター 毎日9:00~22:00 ※日・月曜日・祝日は17:00まで。 丹波篠山総合スポーツセンター 毎日9:00~21:00 ※9月17日(火)は休館。 畑ふれあい館 月~金曜日8:45~17:15	多紀支所 月~金曜日8:30~17:15 西紀 西紀支所 月~金曜日8:30~17:15 西紀運動公園 火曜日以外9:00~21:00 ※日曜日・祝日は19:00まで。 西紀ふれあい館 月~金曜日8:45~17:15	丹南健康福祉センター 月~金曜日8:30~17:15 四季の森生涯学習センター 月~金曜日8:30~17:15 中央図書館 図書館カレンダー参照 10:00~18:00 味間ふれあい館 月~金曜日8:45~17:15 古市ふれあい館 月~金曜日8:45~17:15
城東支所 月~金曜日8:30~17:15 日置ふれあい館 月~金曜日8:45~17:15		今田支所 月~金曜日8:30~17:15 今田薬師温泉ぬくもりの郷 火曜日以外10:00~21:00

今年は市内郵便局でも「ひと涼み処」が開放されます!

お近くの郵便局で、ぜひ、ひと涼みしてください。
開放場所…篠山郵便局、今田郵便局、古市郵便局、丹南郵便局、西古佐郵便局、畑郵便局、篠山河原郵便局、丹波篠山東吹郵便局、篠山本荘郵便局、篠山後川郵便局、篠山日置郵便局、城南郵便局、村雲郵便局、福住郵便局、福井郵便局、本郷郵便局、西紀郵便局、大山郵便局
開放日…月~金曜日(祝日除く) 開放時間…9:00~17:00

熱中症予防のポイント

- ①規則正しい生活 「バランスのよい食事」「適度な運動」「十分な睡眠」
- ②暑さを避ける エアコンや扇風機を上手に利用、涼しい服装を
- ③こまめな水分補給を のどが渇いていなくても、こまめに水分補給



特集 栄光輝く 情報ピックアップ タウンピックアップ HOTとく 市政リーダー インフォメーション 施設情報 相談 はぐくみ 街かどリポート まちの話題



※時間が変更になっています

今月のこんにちは市長室

市長が市政に対してのご意見やご要望をお聴きする場として開催しています。事前の申し込みは不要で、懇談会または1人15分程度の面談です。

とき 7月10日(水) 13:00~15:00
ところ ハートピアセンター
問い合わせ 秘書広報課 ☎552-5109

ふるさといちばん

市長の **HOT** とく

丹波篠山の時代をつくろう



(株)神明ホールディングスと連携

農都のめぐみ米をブランド米に

株式会社神明ホールディングスと丹波篠山市との間で包括連携協定を結びました。神明ホールディングスは、120年の歴史がある日本で一番のお米の卸売会社です。食料自給率を上げること、次世代の農業の担い手を育てることなどを会社の使命として取り組んでおられます。藤尾益雄社長は、「もつかる農業を育てる」「もつとおいしい米を育てる」「パックご飯、寿司、ONIGIRIなどコメの消費を増やし、人々の食料を守る」など、日本の食、農業のための挑戦を続けておられます。

を高く評価していただき、協定締結となりました。農都のめぐみ米についてはできるだけ高く買い取り、プレミアムをつけて販売できるよう努めるとのことです。他にも、子どもたちへの出前授業や田んぼを活用したアクティビティ、丹波篠山国際博に合わせた体験型の食育イベントなどさまざまな提案をいただいています。

次長課長の河本さん

株式会社神明ホールディングスの動画撮影で、藤尾社長、お笑いコンビ「次長課長」の河本準一さん、私が未来の農業に向けて語り合いました。河本さんは農業やお米に強い思いを持たれています。訪問した介護施設のお米がおいしくなかったこと、児童養護施設の子も達が十分に食べられないことを知って、「おいしいお米をおなか

いっぱい食べさせたい」という思いから大分県で「準米」というお米作りをされています。また、大病をされた時、3週間ぶりに口に入れられた「おかゆの汁」がなんと甘くおいしかったことかというエピソードも話されました。

「38%これは日本の食料自給率です。あまりに低いのです。今でも世界で飢えが起こっているのに、将来の世界の人口増、異常気象、有事などを考えると本心に心配です。また、農業者が減り続けています。丹波篠山市でいうと、大型農業者、認定農業者は増えていますが、農地の約7割を守っている小規模農業者や家族農業は減り続けています。

機械代の負担が重いです。トラクター、田植え機、コンバインを揃えると、1200万円〜1500万円もかかります。それに比べ、お米の値段は下がっているのです。20年前、農協の買取価格は30キロで1万2000円だったのが、昨年は1等が約7200円、2等が約6900円です。これでは、年をとったり、機械が古くなったりとそれまで頑張ってきたいてもやめてしまいます。

「お米にもっと価値を見出し、よい値段であってもよいはずですし、集落農業など集落ぐるみで農業を守る取り組みも進めなければなりません。」

吉本興業 YouTube



池野徹さん、田淵真也さん、大内アメリカさんも登場されました。(農都のめぐみ米を生産している西荘生産組合で撮影)



ふるさと納税返礼品を

出品いただく事業者を募集します!

問い合わせ ブランド戦略課 ☎552-0275

ふるさと納税返礼品を出品するには「返礼品提供事業者」の登録が必要となります。このたび、10月1日からの登録期間において、新たに登録を希望される方を募集します。また、現在返礼品を出品している提供事業者も同様に登録更新が必要となりますので、申請をお願いします。

登録期間 10月1日~
申込方法 申請書類をブランド戦略課まで提出または市が指定する申請フォームから申請

申請書類

- 1 丹波篠山市ふるさと納税返礼品提供事業者登録申請書(様式第1号)
- 2 誓約書および同意書(様式第2号)
- 3 本人確認書類(個人事業主、その他の団体の場合)

様式・申請フォームはこちら



説明会開催

8月8日(木) 13:30 ~ 15:30 (予定)

丹波篠山市民センター ※オンライン参加可。

- 【内容】①返礼品登録および更新に関する説明
②寄付額アップに関するご相談
③日常業務に関するご相談

説明会参加申し込みはこちら



大学連携でんしよばと

問い合わせ 神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ ☎506-6628
丹波篠山フィールドステーション ☎506-2366

学生・アクションラーニング



令和6年度の神戸大学食農コープ教育プログラム「実践農学入門」開始!

今年度の「実践農学入門」は、味間地区で受け入れていただきます。農学部以外の学部からの参加もあり、44人の学生が6回の現地実習で、農作業を体験しながら農業や農村生活の理解を深めていき、最後に学生たちによる成果発表会を行います。

1回目の現地実習は、午前中に田植え体験、午後は地域の方との交流会を行いました。また、学生の受け入れ先の1つ、丹波篠山茶生産組合の見学もありました。



レクチャーを受けながら、田植え!

学生の声

神戸大学農学部2年生 村木蒼空さん

手で稲を植えるのは初めての体験で、田植えに従事する人たちの大変さを学びました。「実践農学入門」を通して、農家さんの生活を学び、農家さんのモチベーションにつながる施策の研究などに生かしたいです。



昼食は愛育班の方々が作った豚汁やとふめし!

丹波篠山茶生産組合の見学